

整理番号	32004
評価対象年度	令和4年度
編成区分	当初

事務事業評価(事前)シート

提出日	令和3年11月29日
事業担当課	水産振興課

〈基本情報〉

事務事業名	水産資源再生事業費		<input checked="" type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 拡大
基本施策	C4 水産業を環境変化に強く活気のある持続可能な産業にします		
2025年度にめざす姿 (なにが、どうなっている)	なにが	どうなっている	
	水産業者が	効率的で収益性の高い経営を行っている。	
個別施策	C4-2 水産資源の管理・回復と機能性の高い漁港整備を進めます		
2025年度にめざす姿 (なにが、どうなっている)	なにが	どうなっている	
	漁業者が	水産物を安定的に生産している。	

〈事業の目的及び現在の取組み概要等〉

現状・問題点	魚介類の棲息場所になるとともに、大気中の二酸化炭素を吸収して酸素を供給してくれる海中の「藻場」が消失する「磯焼け」現象が長崎市の沿岸海域でも進行している。それにより主要漁獲物であるイセエビの漁獲量が激減して漁業者の経営に影響がでている。
目標(誰(何)をどのような状態にしたいのか)	地場企業の開発した新技術により藻場の面積を増加させるとともに製造業の活性化に繋げる。 年間を通じて藻場が存在する環境にすることで、空気中の二酸化炭素の減少に繋げる。 イセエビの資源回復により、漁師の収益改善を図る。
課題(どういことをする必要があるのでか)	事業に適した海域の調査を行う。 地場企業の開発した商品(リーフボール)の効果を実証する。
上記の問題点に対して現在行っている事業の有無	<b>有</b> ・無 ※有の場合は事業概要を添付(委員会資料等) ・水産多面的機能発揮対策支援事業 ・水産種苗放流事業費補助金
当該新規・拡大事業を行うにあたり、縮小・統合・廃止する事業	<b>有</b> ・ <b>無</b> ※有の場合は事業概要を添付(委員会資料等) 新規・拡大事業を行うためには、今までやってきた取組みを検証し、成果や効果が低い事務事業の終了も含めた「選択と集中」に努めることが不可欠です。

《事業の概要》

<p>事業の具体的内容 (対象、事業主体、事業 期間、総事業費、事業 費内訳等記載)</p>	<p>(1)業務内容 ア 長崎の技術を活用した水産資源再生 長崎市の企業が開発した、藻場再生の効果が見込まれ、またイセエビの生息地にもなる人工藻場礁・漁礁を沿岸海域に設置する。 イ 効果検証 人工藻場礁・漁礁を海域に設置した後、一定期間経過後に藻の繁茂状況及びイセエビの生息状況を潜水や水中ドローン等を使い調査する。 (2)事業主体(事業受託者) 契約の相手方は、本業務を実施できる民間企業、研究機関又は研究機関に籍を有する者、漁業協同組合の連携体制により業務を実施できる者とする。 (3)委託費 29,930,000円 【内訳】 ①藻場造成業務 26,965,000円 ・概要:地場企業が開発した藻場再生のためのリーフボールを設置する。 ・対象地:野母崎地区地先、伊王島地区地先、三重地区地先 ・作業内容:資材調達・運搬・設置、報告書作成等 ②水産資源回復調査業務 2,965,000円 ・概要:調査の対象とするイセエビの稚エビの成育に適した水域を選定するための調査及び造成した藻場での成育状況を調査する。 ・対象地:野母崎高浜地区地先 ・作業内容:潜水による事前・事後調査及び母藻設置、報告書作成等</p>
<p>業務量の増減</p>	<p>180時間(業務契約90時間、関係者協議50時間、効果検証40時間)</p>

市民等の参画と協働のまちづくり (取組みに☑をし、その内容を記載)	<input type="checkbox"/> 情報共有 <input type="checkbox"/> 参画 <input checked="" type="checkbox"/> 協働						
	漁業者・民間企業・研究機関が連携して水産資源の再生・回復に取り組む。沿岸漁業者の協力を仰ぎつつ事業を実施し、将来の水産業の発展につなげる。						
事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度 <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰り返し <input type="checkbox"/> 期間限定 ( 年度～ 年度 )						
予算額		金額(千円)	国	県	地方債	その他	一般財源
	当年度	29,930					29,930
	総額	29,930					29,930
	財源名称						
成果(活動)指標	指標(単位)	イセエビ生産量(トン)					
	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	
	目標値	8	8	8	8.8	8.8	
	成果指標及び目標値の説明	H29～30年の平均値8トンから3年で10%増を目標とする。(出荷サイズになるのに3年必要なため、R4～R6は8トンを維持。R7=8トン×1.1=8.8トン)					

## 評価結果

(1) 今後の事業の方向性と理由	
<input checked="" type="checkbox"/> 採択	<input checked="" type="checkbox"/> 所管案のとおり <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 事業規模拡大 <input type="checkbox"/> 事業規模縮小 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> その他
<input type="checkbox"/> 不採択	<input type="checkbox"/> 企画不十分
<input type="checkbox"/> 一部不採択	<input type="checkbox"/> 企画不十分
(2) 評価会議における指摘事項	
<p>長崎の企業が開発した人工藻場礁・漁礁を沿岸海域に設置し、設置後の藻の繁殖状況及びイセエビの生息状況を水中ドローン等を使い調査するものである。</p> <p>「磯焼け」現象が長崎市でも進行する中、藻場が存在する環境をつくることは、空気中の二酸化炭素減少にもつながり、また、イセエビの資源回復により、漁師の収益改善が図られ、今後の事業への波及効果も期待できることから、事業の実施は適当である。</p> <p>ただし、事業実施に対する意見は次のとおり。</p>	
<p>【事業実施に対する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・藻場再生のこれまでの取組み、効果、課題等を整理し、本事業の必要性を明確にすとともに、今後の戦略をわかりやすく示すこと。</li> <li>・漁獲量というアウトカムの分析をしっかりと行うこと。</li> </ul>	